

# オープンハウスの開催結果

## (1) 実施概要

10月15日～12月15日までの間に、13箇所の会場においてオープンハウスを実施しました。都市づくりに関するパネル展示を行うとともに、来場者に対する説明と簡単なアンケート（パネル形式及び記入形式）を実施しました。また、市ホームページでもパネル内容の公表及び簡単なアンケート（記入形式）を実施しました。

表 開催日時と場所

No.	施設種別	会場		実施日	参加人数
1	市庁舎等	緑区	緑区役所	11月 9日(木)	114
2			相模湖公民館	12月13日(水)	31
3			藤野公民館	12月15日(金)	26
4	市庁舎等	中央区	中央区役所	11月 7日(火)	14
5		南区	南区役所	11月 8日(水)	22
6	公園、集客施設等	緑区	アリオ橋本	11月11日(土)	40
7			ダイエー津久井店	11月16日(木)	22
8		中央区	相模原駅ペDESTリアンデッキ	11月10日(金)	21
9			淵野辺公園	11月19日(日)	43
10		南区	相模大野駅ペDESTリアンデッキ	11月18日(土)	21
11	相模原麻溝公園		11月12日(日)	51	
12	イベント等	緑区	城山もみじまつり	10月15日(日)	41
13		中央区	潤水都市さがみはらフェスタ	11月 4日(土) 5日(日)	229
				合計	675

津久井やまびこ祭り、相模湖ふれあい広場、藤野ふる里まつりにて開催を予定していましたが、雨天の為、中止となりました。

参加人数はパネルアンケートの問2の回答者数から計上しました。

表 記入アンケートの回収状況

回収方法	回収数
オープンハウス会場	135
ホームページ	61
都市計画課窓口	4
合計	200

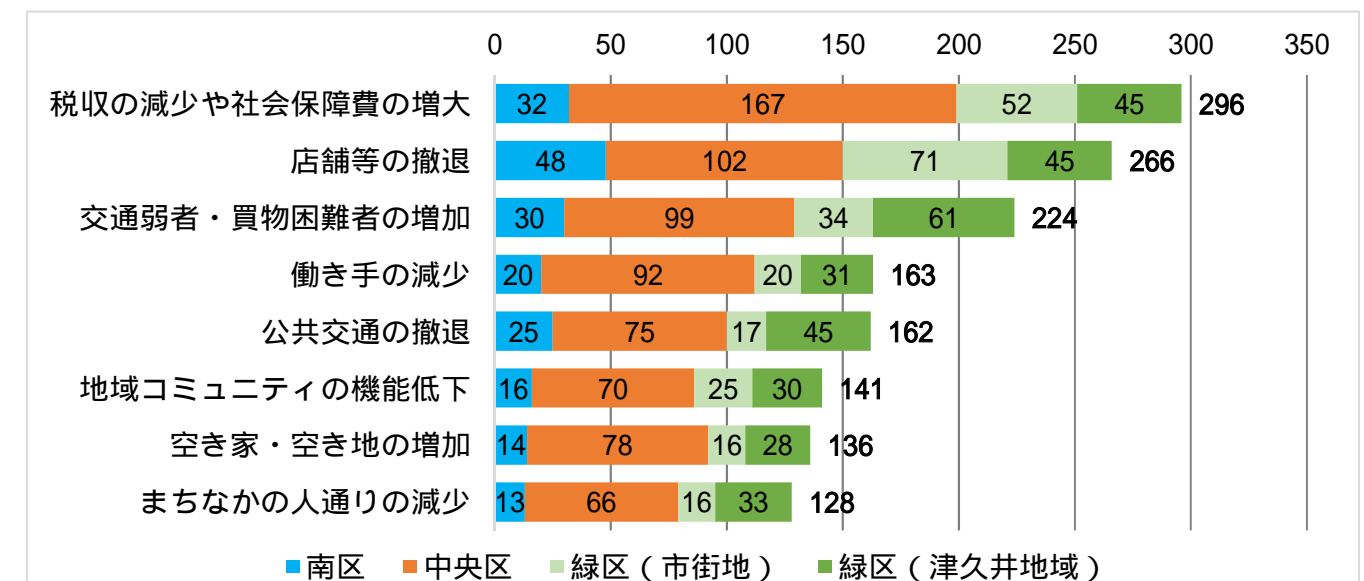


## (2) アンケート調査結果

都市づくりで『最も心配だ』『問題である』『最優先に対応すべき』と感じていること(3つまで選択)

- ・「税金の減少や社会保障費の増大」「店舗等の撤退」が全地域共通で多くなっている中で、津久井地域は「交通弱者・買物困難者の増加」が最も多くなっている特徴があります。
- ・南区と津久井地域においては、「公共交通の撤退」が上位となっています。
- ・緑区(市街地)では「地域コミュニティの機能低下」、中央区では「働き手の減少」が上位となっている特徴があります。

(市全体の状況)



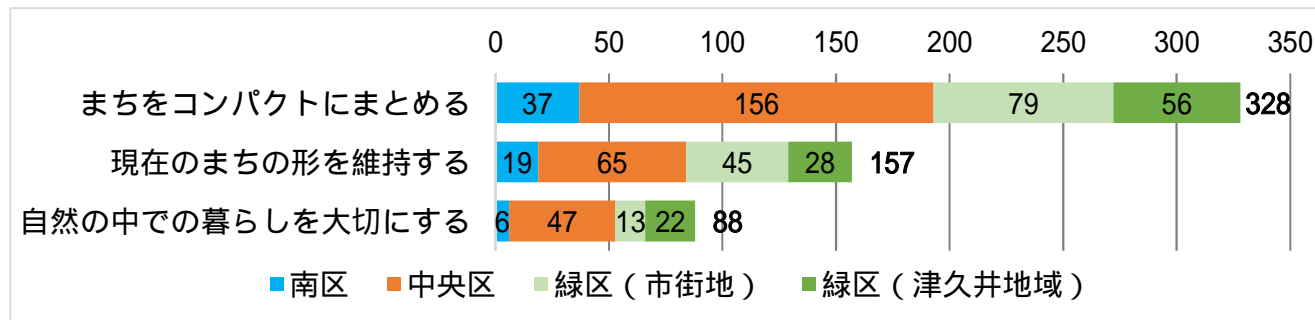
(地域別の状況：上位4つ)

	南区	中央区	緑区(市街地)	緑区(津久井)
1位	店舗等の撤退	税金の減少や社会保障費の増大	店舗等の撤退	交通弱者・買物困難者の増加
2位	税金の減少や社会保障費の増大	店舗等の撤退 交通弱者・買物困難者の増加	税金の減少や社会保障費の増大	公共交通の撤退 店舗等の撤退
3位	公共交通の撤退		交通弱者・買物困難者の増加	税金の減少や社会保障費の増大
4位	交通弱者・買物困難者の増加	働き手の減少	地域コミュニティの機能低下	

## 自身が考える都市づくりの方向性（1つ選択）

- ・自身が考える都市づくりの方向性としては、「まちをコンパクトにまとめる」が最も多く、構成割合が最も多いのは南区となっています。
- ・次いで多いのが「現在のまちの形を維持する」で、構成割合が最も多いのは緑区（市街地）となっています。
- ・「自然の中での暮らしを大切にする」の構成割合が最も多いのは緑区（津久井）で、「現在のまちの形を維持する」と同程度となっています。

### （市全体の状況）



各選択肢に対して以下の情報を提示した上での回答

選択肢	回答の際の提示情報
まちをコンパクトにまとめる	【メリット】店舗・病院・公共施設などに徒歩や公共交通等で移動できる。 【デメリット】郊外に居住すると病院やスーパーがなく不便である。
現在のまちの形を維持する	【メリット】今の生活スタイルを変えずに暮らせる。 【デメリット】現在の公共サービス維持のために税負担が増える可能性がある。
自然の中での暮らしを大切にする	【メリット】自然に囲まれ、広々とした住宅でゆったりと暮らせる 【デメリット】公共・生活サービスを身近で受けることができない場合がある。 自分で車の運転ができなくなった場合に生活が困難になる。

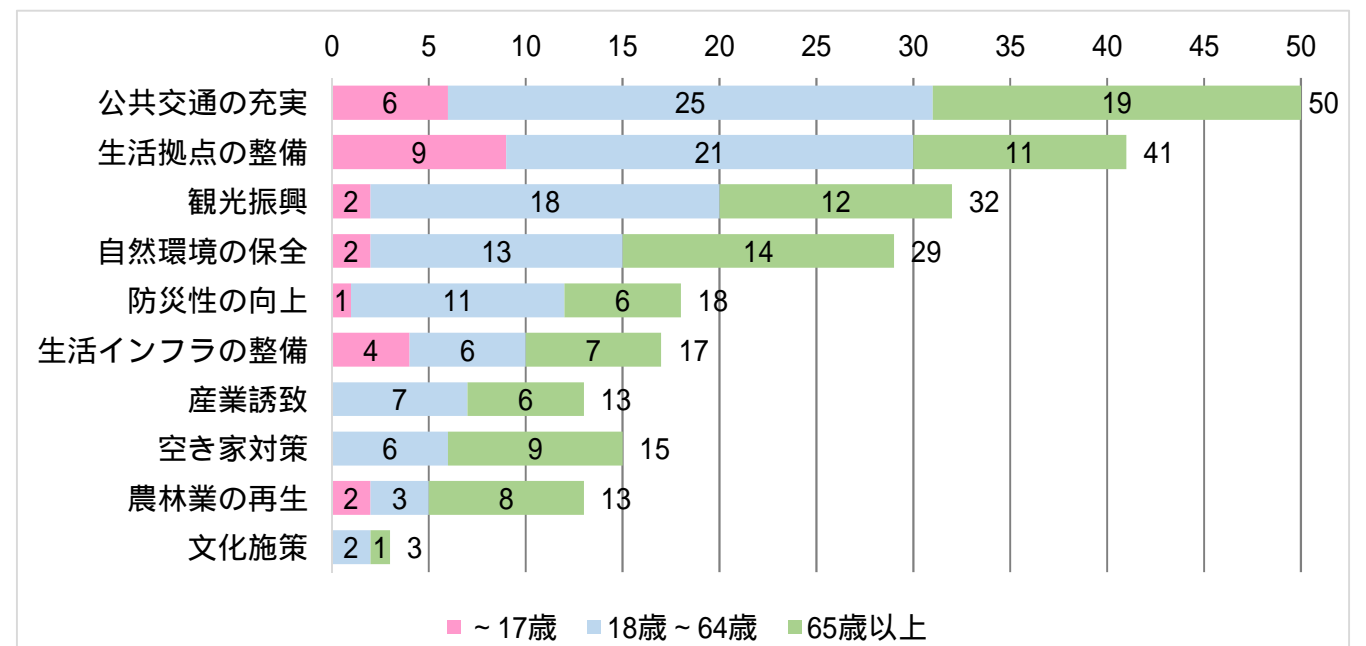
### （地域別の状況）

	南区	中央区	緑区（市街地）	緑区（津久井）	市全体
まちをコンパクトにまとめる	60%	58%	58%	53%	57%
現在のまちの形を維持する	30%	24%	33%	26%	27%
自然の中での暮らしを大切にする	10%	18%	9%	21%	16%

## 津久井地域（市西部）で特に重要と考える取組（2つまで選択）

- ・特に重要と考える取組は、「公共交通の充実」が最も多く、次いで「生活拠点の整備」、「観光振興」、「自然環境の保全」の順となっています。
- ・年代別に見ると、公共交通の充実は全世代共通で多いです。
- ・17歳以下は生活に係る取組、その他の年代では観光振興が上位となっており、世代間で考えが異なる特徴があります。
- ・65歳以上では、自然環境の保全も重要と考えられています。

### （市全体の状況）



### （地域別の状況：上位4つ）

	17歳以下	18歳～64歳	65歳以上
1位	生活拠点の整備	公共交通の充実	公共交通の充実
2位	公共交通の充実	生活拠点の整備	自然環境の保全
3位	生活インフラの整備	観光振興	観光振興
4位	観光振興 自然環境の保全 農林業の再生	自然環境の保全	生活拠点の整備